現地視察レポート

教育施設	コメント
教育施設全般	・全般的に維持管理が不足している印象。見学できた範囲では、外観はきれいとはいえず、外構の雑草が散見され、それらの整備は教員や生徒の親に頼っているとのこと。それでいいのか疑問。 将来の生徒の増減を考慮した、**空間の柔軟な転用**を可能にするよう、建築的な対応を検討しては。 ・小中一貫校の整備を検討してもいいのではないか。 ・統廃合については別で検討されるためノーコメント。 ・当面は空き教室の活用、また逆に教室が足りない**笠原小・東小については将来的に児童数が減った時の想定も行ったフレキシブル対応が可能なつくりでの増設検討が必須** **・プールの維持管理にそれなりの費用がかかっているようであれば、手放す選択を検討。**総合運動場のプールをバス送迎で利用する、複数校が利用できる屋内プールの確保に費用投下するなど検討 ・小中学校適正配置計画審議会で答申が出されているので、中学校1つ、小学校3つの考え方は基本として尊重するべき。 ・中学校にはプールは必須と思うが、**小学校は送迎バス代を考慮しても、ぐるる温水プール等をうまく活用する**ことが考えられるのではないか？ ・統合中学校を新設した際、防災上の観点から給食センターの併設や、**廃止される中学校跡地の防災上の活用、地区コミュニティ拠点としての機能は残す**必要がある。 ・令和3年度、文科省が進める**コミュニティスクール**は須賀中と東小がモデル校となったが、いずれは全校が指定されるので、**学校施設を活用した地域との連携**は深めざるを得ない。

現地視察レポート

1　須賀小学校	・校庭に象徴的に植わっている樹木は、今後も大切にしていただきたい。 ・小中校地が隣接していたり、体育館が併設されていたりするにもかかわらず、併設されていることの（施設面での）メリットがないように感じた。整備された当時の事情もあったとは思うが、小中学校を核に施設を複合化・多機能化する場合の課題が現れているようにも感じた。 ・増築繰り返し、建築物としては寿命近づいている感あり、教室は余っており、学童あり年配者は思い入れあるようだが・・・ **→空き教室は公民館機能、コミュセン機能をこちらに移管**できないか要検討 ・必要に応じてつぎ足された校舎だが、工夫して各教室が使われている。プールや校舎の老朽化が進んでいる。 ・児童数は減少しているが、和戸地区に小学校1つは必要。 ・生徒数は減少に入っている ・空き教室が地区のコミュニティスクールに認定されていて、**本来の公民館的機能も有しており、和戸公民館の機能集約・複合化**候補
2　百間小学校	・立地は非常に魅力的で、使い方によっては、笠原小学校と並ぶ魅力的な施設にできるのではないかと思う。 ・校庭が2つあり、教室に余裕？も感じられる。スポ少でもグラウンド利用がされている。**学区変更して、児童数を増やす**ことも一案ではないか。 ・児童数が減少しているが、姫宮地区に小学校1つは必要。 ・生徒数は減少に入っている ・空き教室も相応にあり、**川端公民館の機能集約・複合化候補**

現地視察レポート

3　東小学校	・木造校舎が最大の価値の一つであるといえるが、それを生かしているようには見えない。特に外観に木造校舎らしさを阻害するような改修がなされ、大変残念に感じた。 ・木造の旧校舎の使われ方、外装を含めた使われ方がややもったいない感じ。増築工事中のこともあり校地は狭い。道仏の開発によって笠小とともに児童数が一時的に増加しているものの、**校地が狭い＆駅からのアクセスが非常によいので、廃校利用**を比較的考えやすそうな気はする。（普通教室として使えないという木造校舎の使い方も考えられるかもしれない） ・更新期間まで０年、増築中、教室足らず、学童保育あり→**木造部は文化財として保存できないか検討しつつ、地域に開かれた活用**ができるといいのでは。児童数が減った後の活用イメージを持っておく必要あり ・児童数の増加に伴い、狭い校庭内に新校舎を建設中。いずれ、児童数が減った場合には、学童保育施設などに転用されそう。・校庭も校舎もぎりぎりの状況だが、小中学校適正配置審議会で少なくても10年は維持するものの、長期的には笠原小と1つが望ましいとされる。 ・道仏土地区画整理地への人口流入で生徒増えており、現在４教室分の校舎増設工事中・歴史的な**木造校舎あり。地域資源として将来的な活用**余地あり
4　笠原小学校	・建築設計の質の高さから全国的に知られる小学校であり、それが子どもを育てる施設として有効に使用され続けていることは、大変すばらしい。町の極めて重要な施設であるので、今後も、長期的な視点に立って、オリジナルの建築のよさを生かしつつ、維持管理・再整備等を続けていただきたい。 ・施設、立地はとても魅力的なので、民間による活用はもっとも考えやすい施設だとは思うものの、東小とともに児童数が増加しているとのことで、明らかに東小では統合を吸収することはできない。 ・ランドマーク的な建築設計、福祉交流サロン、 ・学童、学校開放など取り組みも盛ん →児童数が減った後の活用イメージを持っておく必要あり ・竜宮城のような特徴的な建物であり、笠原小が転入する家庭の理由の1つにもなっている。 ・特殊な建物で改修費のコストがとてもかかりそう。地盤沈下も進んでいる。 ・児童数が増加し、教室数はぎりぎりの状況だが、長期的には東小と1つに合併が望ましいとされる。

現地視察レポート

	・周囲の自然や田園風景と調和する建物を有しており、地域資源としての価値もある ・特色ある教育を実施。生徒数は定員埋まっている
5　須賀中学校	・生徒数が少ないのが気になる。 ・余っている空間があるのであれば、地域に開き住民サービスに寄与するよう、柔軟な転用を検討しては。 **・電車駅からのアクセスも悪くないので、統廃合先**として考えられる気がした。小学校を町内に３校存続させるとすると、須賀小学校を廃止することは考えづらいので、その姿はここを残すのも意外と自然なのかもしれないと思った。電車からのアクセスはよいが道路のアクセ社必ずしもよくないので（特に小学校が残る場合）、利活用を考えるのも困難だと感じた。 ・和戸駅が近く、体育館小学校と中で分かれる、老朽化目立つ、生徒数少ない →小学校同様、**空き教室は公民館機能、コミュセン機能をこちらに移管**できないか要検討、もし建て替えとなった場合は小学校とただくっついた形ではなく、効率的な運用ができる設計、運用に ・校舎の老朽化がとても進んでいるように見える。 ・プール、体育館は校舎から離れている。 ・生徒数が大きく減少しており、今のところ増加する見込みはない。 ・老朽化が進み、グラウンドも狭い ・生徒数も減少しており、**公民館の機能集約・複合化**を検討する中で、小中一貫校など特色ある学校として再生も検討課題とすべき
6　百間中学校	・校地が狭いので、仮に統廃合先の候補として考える場合は、（東小を廃止してその校地を合わせて使うなど）合わせ技が必要になりそうに感じた。 ・空き教室の一部を役場の書類整理に使用、今後生徒数は少し増える予定 →**空き教室は公民館機能、コミュセン機能をこちらに移管**できないか要検討 ・今後、笠原小と東小の児童数が増加するので生徒数も増加するが、全盛期の人数までにはならないので、当面、受入れは可能と思われる。 ・金工室など一部の校舎はかなり老朽化が進んでいて、廃止や改修が必要。 ・空き教室あり、役場の保管庫として活用 ・道仏土地区画整理地への人口流入で今後生徒は増えるため当面見直しは困難

現地視察レポート

7　前原中学校	・生徒数が少ないのが気になる。 **・余っている空間があるのであれば、地域に開き住民サービスに寄与するよう、柔軟な転用**を検討しては。 ・生徒の減少の可能性が高く、統合される可能性が高い様子であった。しかし、校地は広く、校舎脇の宮代の絵など魅力に感じる点もあった。 ・門への入り口が周辺に比べて低く水が出ることがある等の課題は解決する必要がある。電車からのアクセスは悪いので、統廃合先として考えづらい。民間に貸し付けるなどを想定する場合にも、アクセスの利便性があまり問題にならない施設等に限定されそうな気がした。 ・夜間照明を設置し、地域に夜間開放している、芝生の手入れなど行き届いていない印象、教室も余っている **→空き教室の活用を検討、保健センターの移転**など難しい？（駅近ではないが、駐車場スペースも十分確保できそう） ・生徒数が大きく減少しており、今のところ増加する見込みはない。 ・大雨の時など、通学路に水が出る。校庭も荒れているように見え、管理まで手が届いていないような気もする。 ・生徒数は大きく減少 ・グラウンドは地域に開放されているが利用は限定的 ・統廃合して**跡地への民間活力導入**が選択肢
福祉施設	コメント
福祉施設全般	・全体的に機能としては必要不可欠なものが多いため、効率的な運営や町民への開放等ができるか検討**・旧ひまわり作業所は、現在賃貸中の社会福祉法人または新事業者に譲渡**できないものか ・低年齢児の利用増が予測されるが、公立2園のほか、民間保育園が整備されている。民間幼稚園が認定こども園化して保育機能も担うことが必要。 ・高齢者施設は、六花の「老健」は町で管理する必要はないのでは？ ・すてっぷ宮代の福祉交流拠点の想定しているイメージがわからない。障害者施設ひまわりの家が移ったが、民間事業所が増えている中で、このまま社協が優遇され続け運営する妥当性はあるのか？ ・子育て支援センターなど乳幼児親子の機能は充実したが、小中高校生を対象とした目的の施設がまったくないのはどうなのか？ **・六花と保健センターについて、医療と保健を一体化**した方が機能的ではないのか？

現地視察レポート

8	公設宮代福祉医療センター六花	・建物が立派である。**市民に開かれ、より有効に使われるよう検討**を続けていただきたい。もし、**余剰スペースがあるのであれば、他用途に転用**してもいいのでは。 ・とても立派な施設で、明るくて開放的な施設だった。一方で、出入り口が多くあり、セキュリティや現状のような感染症対策などを考えたときに費用がかさみそうな施設だった。ここで**保健センターが実施している検診等を吸収**することができればそれが理想的だと思う。 ・施設きれい、問題なく運営されている様子 →他に医療施設少なく必要、**一部が地域に開かれると尚良い**のでは ・指定管理の要求水準書内容は知らないが、診療所併設の老人保健施設（80床）は、町の管理から民間（社福）等に手放してもよいのではないか。 ・町内、町外にも、介護保険施設はずいぶん多く整備されてきた。 ・**「保健センター」機能を移して、保健医療連携**を図ったほうがよいのでは？ ・6 つの福祉医療機能を集約して、時代に合った効率的なサービスを提供しており、必要な施設
9	みやしろ保育園	・まだ新しい施設でかつ現在の社会情勢をみても統廃合等を考えるような施設ではないと思うので、きちんと維持管理して利用していくべき施設。 ・施設きれい病児保育機能付きは希少→保育施設も病児保育施設も少なく必要 ・六花に併設されているため病児保育も可能となっている。・園舎も比較的新しく、当面、このまま運営されることが妥当と思う。 ・直営保育所として地域にも支持されており（ほぼ定員）、必要な施設

現地視察レポート

10	国納保育園	・駐車場問題が指摘されていたものの、大きく問題はないと思う。送り迎え導線を改善する方法は考えられるのか？将来的には更新需要が発生するが、現時点では大きな問題ではないと思う。 ・駐車場足りない印象 ・子育て支援センター、選挙会場などに使用 →必要不可欠、駐車場の確保を検討して、発信・コミュニティ創出の場としてより活用しやすい施設に ・和戸地区には民間保育所がなく、施設も比較的新しいので、当面、このまま運営されることが妥当と思う。 ・子育て支援センターを併設しているが、イベント時など窮屈。 ・同上
11	かえで学童保育所	・須賀小学校に同じ ・須賀小学校の余裕教室を利用されているので、児童、親にとって安心。 ・学校の児童数は減少しても、学童保育のニーズは比較的あると思う。 ・保護者会の NPO 法人が運営しているが利用上の課題は不明。 ・須賀小学校併設
12	かしの木学童保育所	・百間小学校に同じ ・百間小学校の余裕教室を利用されているので、児童、親にとって安心。 ・学校の児童数は減少しても、学童保育のニーズは比較的あると思う。 ・運営管理は、（株）アンフィニに移ったが利用上の課題は不明。 ・百間小学校併設

現地視察レポート

13　いちょうの木学童保育所	・東小学校に同じ ・東小学校の余裕教室2つでは足りず、近くの民間ビルの一室を賃借しているが、本来であれば校内が望ましい。 ・今後、利用者増に伴って、さらに部屋が足りなくなることが目に見える。・運営管理は、(株)アンフィニに移ったが利用上の課題は不明。 ・東小学校併設
15　ふじ学童保育所	・笠原小学校に同じ ・学童専用施設が新設されたので、当面の利用者増に対応する受入れは可能。 ・運営管理は、(株)アンフィニに移ったが利用上の課題は不明。 ・笠原小学校併設
14　陽だまりサロン	・笠原小学校に同じ ・笠原小にあることは知っているが、NPO が指定管理をして、どのような使われ方をしているのかは不明。 ・一部の町民には、必要なのかもしれない。 ・笠原小学校併設
16　すだちの家	

現地視察レポート

17	すてっぷ宮代（旧ふれ愛センター）	・社会福祉協議会の運営となったが、町民（子ども）にもっと開かれた施設として上手に活用してほしい。 ・西原自然の森と合わせて、宮代には無い青少年施設、廃止された児童館など、子どもたちも利用できる場所を検討してほしい。
18	旧ひまわり作業所	・直営から民間の地域包括支援センターとなった「もみの木」に無償で貸出されている。今後もこの考えで問題ないのか？
	文化施設	コメント
	文化施設全般	・公民館は、無人の管理であり、規模も小さい。集会所と機能的にはさほど違いがないため、廃止でいい。これまでの機能は学校や集会所に移転すれば、空間的にも立地的にも支障がないのでは。 ・宮代は社会教育施設や保健体育施設に充てている予算がそこそこ大きい。（社会教育施設が教育費歳出の18％） ・公民館と集会所が併設されている場所は、無駄な感じもしなくもない。ただ、特に町の西側など集会所以外の施設がない地域には、**集会所がコミュニティの核となるような使い方**を考える必要がありそうだと感じた。 **・公民館は取り壊し、集会所や近隣校の空き教室を活用**するなどの検討要 **・進修館、図書館、総合運動場、新しい村については、効率的な運営体制と利用向上・拡大、一層の収益化**について検討 ・はらっパークと郷土資料館についてはアピール不足の印象。広報強化すべき ・宮代では、そもそもコミュニティ施設と教育施設の区別もないため、**「地区センター・公民館」というような概念で、進修館と公民館、地区の集会所の役割と機能分担の基本方針**を固めておく必要がある。 ・高齢化が進むことで、身近な集会所をはじめ、地区のコミセン・公民館の貸館のニーズは高まる。 ・宮代町を含む3市2町で広域相互利用をしているが、宮代は「ぐるる、進修館、図書館、はらっパーク」の4施設のみ。同じ機能の施設は近隣市町にもあり、宮代町民も同条件で利用可能である。

現地視察レポート

	・文**化施設については、施設包括委託導入**を検討するなどしてもよいのではないか。**ネーミングライツ**の活用も一案と思う。

現地視察レポート

19　進修館	・町の市民交流のハブであり中心的な役割のある極めて重要な施設であるといえる。管理はそれなりにされている印象だが、高経年化に伴い、**機能的な面を含めた改修**の時期を超えていると考えられる。長期的な視野に立ち、再整備を検討すべきであろう。 ・魅力的な施設で町の中心的な場所にある施設でもあるので、老朽化がしんこうしないように丁寧に手をかけていくのが望ましい施設。**クラウドファンディングやふるさと納税を募る**対象としても使いやすいと思う ・平時十分に活かしきれていない印象、宮代町のランドマーク的な施設の一つとして取り壊す選択肢はないが、**コスト高→指定管理者に独自で収益を上げる仕組み**求めたい、または指定管理先の変更や新しい人の投入できないか要検討 ・公共施設がなかった昭和５５年当時に多くの機能を担う施設として建設されたが、今の時代には若干そぐわなくなってきている。・役場議場としても活用されるが、市民活動を阻害する要因にもなっている。・家具や建物が特殊のため、修繕や改修費がかなりかかるはず。・みやしろの顔の施設として必要だが、**コミセンや公民館のあり方と合わせたコニュニティ施設の活用のあり方**を検討する必要がある。 ・地域のコミュニティ・賑わいの拠点として機能・小ホール（議場）も兼ねる・地域資源としての価値もあり、東武動物公園駅西口エリアの中核施設として位置付け

現地視察レポート

20　町立図書館	・笠原小学校や新しい村など、宮代の象徴的なエリアにありながら、それらの宮代らしい一連の建物の一つには見えない。一方で、講演会等の文化事業も積極的になされていたり、建物まわりの有効な空間利用を日工大と連携して実施するなど、指定管理者によるソフト的な取組みが奏功している。今後に向けて、進修館等と比べ立地が劣る分をいかに補完するかが重要であると考えられる。総合計画にあるワクワクロードの整備の範囲に含め、駅から新しい村に向かうルートに組入れ、図書館の敷地を含めた散策路の整備を検討しては。 ・町の規模からするととても充実した図書館だと思う。立地もよい。ただ、指定管理料もそこそこ高額。現在は外構部を利用したカフェの展開を考えているとのことで、よい取り組みだと思う。地域や日工大との連携にも熱心な様子がうかがえた。地盤沈下が進行している＆沈下を前提としているという駐車場などの舗装部分が不便（ベビーカーがひっかかる）という声が出ていた。新しい村～図書館までの導線はとても魅力的なので、一体的に利用できる、あるいは一体的に運営できるような手法を考えられないか。 ・貸し館、指定管理、非常に積極的な運営がなされている印象→**より収益化**できないかの検討と他施設との連携などもあるといいのでは ・現在も利用者は多いが、近隣に図書館が整備されたことで相互利用も可能で、宮代図書館としての特色も求められる。 ・2階の閉架ゾーンに大量の蔵書があるが、閉架ゾーンが限られているため町民は目にすることができない。 ・日工大生作成によるテラスのベンチが良いが、図書館の入口付近の雰囲気づくりを担ってもらったほうがよい。 ・図書館のホール、視聴覚室は、進修館の機能補完するものである。 ・図書館と郷土史料を合わせて活用できるような工夫が必要ではないか（白岡市のこもれび参照）。 ・市民大学や観劇といった地域コミュニティ・生涯学習機能も担っている ・自然と調和した魅力的な空間で、地域資源としての価値あり
21　和戸公民館	・きれいに維持管理されている印象。 ・例えば進修館と比べてバランスがどうなのか気になった。 ・三か所の中では一番立派な施設だが、「拠点」的な施設として考えようとすると駐車場の問題が出てきそうに感じた。立体交差化が進められているとのことだが、近隣の踏切～交差点の交通渋滞が目立った。 ・更新時期過ぎている、貸し館機能のみ ・町民は活用しているが、集会所でいいのでは **→須賀小・中の空き教室または集会所に移転**して取り壊すのがいいのでは ・公民館法に基づく社会教育を推進するような運営はされていない。

現地視察レポート

	・健康サークル、地域サロンなどの貸館となっていて、単なる地区の大きな集会場としての役割になっている。 ・コロナ交付金で畳など新しくなったが、今後、地区コミセンとしてなど検討が必要。 ・公民館が集会所的機能と化していて、老朽化も進行 **・他の公共施設への集約や複合化**を検討すべき
22　百間公民館	・駅に近い立地を活かせば、より有効な活用ができるのではないか。 ・駐車場は小さいものの、駅からも近く、地域コミュニティの核として使うには必要十分なサイズのような気がする。 ・更新時期過ぎている、貸し館機能のみ、元は図書室として使用していた地区の集会所あり **→百間中学校の空き教室または別の集会所に移転**して取り壊すのがいいのでは ・公民館法に基づく社会教育を推進するような運営はされていない。 ・健康サークル、地域サロンなどの貸館となっていて、単なる地区の大きな集会場としての役割になっている。 ・コロナ交付金で畳など新しくなったが、今後、地区コミセンとしてなど検討が必要。 ・百間公民館に地区の集会所が入居していること自体が本当はおかしい。 ・公民館が集会所的機能と化していて、老朽化も進行 **・他の公共施設への集約や複合化**を検討すべき
23　川端公民館	・姫宮駅からもそう遠くなく、使いやすそうな場所にあるとは思う。 ・更新時期過ぎている、貸し館機能のみ町民は活用しているが、集会所でいいのでは**→百間小学校の空き教室または別の集会所に移転**して取り壊すのがいいのでは ・公民館法に基づく社会教育を推進するような運営はされていない。 ・健康サークル、地域サロンなどの貸館となっていて、単なる地区の大きな集会場としての役割になっている。 ・コロナ交付金で畳など新しくなったが、今後、地区コミセンとしてなど検討が必要。 ・公民館が集会所的機能と化していて、老朽化も進行**・他の公共施設への集約や複合化**を検討すべき

現地視察レポート

24	総合運動公園	・広大な敷地に十分すぎる機能が配されていて、価値の高い市民サービスを提供している。一方で、町の規模とのバランスが取れているのか気になる。近隣自治体と連携して、有効に活用されるよう、さらなる取組みを期待したい。その意味では、利用しない市民もそれなりにいるので、**利用する近隣自治体の市民及び宮代町民の受益者としての負担を高める、つまり利用料金を高くする**方向性を探ってはどうか。関連して、同様な民間施設も町の内外にあるので、それらとのバランス（利用料金を安くしすぎないこと）を考慮することも重要であろう。 ・現在の指定管理は大変よいと考えられるが、そのよさが十分発揮されるよう、検討を続けていただきたい。 ・町の規模からすると贅沢な施設。ボイラーの更新には何らかの新しい手法（ESCO、J クレジット等？）を検討する必要がありそう。都内自治体の感覚からすると、**利用料が安すぎる・・・** ・プール老朽化、ミズノ指定管理、利用者半分以上町外 端に位置することに利用可否に不公平 →**規模過分、譲渡できないのか要検討、あわせてより収益化**できないのか、他に指定管理者となりうる候補者いないのか ・宮代にとっては背伸びした施設だが、健康増進の視点からも指定管理者とともにうまく運営管理していってほしい。 ・いずれプールの改修が必要になったときに、学校プールとの関係を考慮に入れて進める必要がある。 ・民間の運動施設（プール、テニスコート、ジム）が近隣にあるが、民業を圧迫せずに公共施設が運営する役割（介護予防、福祉的な利用）が必要。 ・10 年前からミズノの指定管理で運営が改善 ・多様なスポーツを通じた交流拠点として機能
25	旧いきがい活動センター	・総合運動公園ができる前は、体育館として多く利用されていた。 ・現在は、月1万円で昌平高校に貸出し、普通財産となっているが、今後、施設は課題となる
26	はらっパーク宮代	・広域連携が考えられる立地である。 ・気持ちよさそうで良い施設だとは思うし、宮代町らしいという部分はあると思う一方で、 ・周辺の春日部市等からも利用者あり、指定管理、バーベキュー利用可、ストライダー、グランドゴルフの聖地、アーチェリー場など、独自の活用がなされている →3 つのスポーツの聖地としてより広報に力を入れて一層の活用を図るるべき、利用状況確認、これらに思い出がある利用者を集客できる仕組みを要検討 ・大きな原っぱ（グラウンド）は、近隣のサッカーチーム、アーチェリー等の大会などで広域利用も多い。

現地視察レポート

		・ナイター設備がなく、冬場は16時そこそこで閉められてしまう。 ・臨時駐車場となる遊水地は、若者向けアーバンスポーツに使える整備をしてもよいのでは。 ・防災上も必要な施設 ・建築物は管理棟のみ
27	宮代町郷土資料館	・宮代町らしさについて過去に遡って触れられる貴重な施設である。循環バスのルートになっていてアクセスも悪くないので、情報発信や広報により力を入れ、ガイドツアー等の活動をより積極的に進め、施設を有効活用していただきたい。 ・一帯で魅力的な場所であるとおもうし、内容的に町にとって資料的価値の高いものもあると思う。とはいえ、「倉庫」「発掘作業場」以上の使い方がされている感じは少なく、人件費以外のお金もほとんどかけていないため、将来が不安。竪穴式住居、旧進修館、旧町長邸など使い方次第で新しい魅力になりえる場所だと思う。 ・価値のある研究・展示がされているが市民に十分に開かれていない印象 →**指定管理による運営等を検討して積極的な取り組み**がなされる体制にすべきでは ・文化財の保存も大切だが、活用することも町民に還元するうえで大切。そもそも駐車場であった借地を返してしまったのでどこに車を止めて、どこから入るのが正解か一般の利用者はわからない。看板もわからない。 **・本館並びに屋外住居等の利活用（縄文宿泊、古民家宿泊、カフェ）、西原自然の森の活用**など進める必要がある。 ・本館は暗く雑然としている。**利用料をワンコインでも徴収**して内容を充実させる。利用料を徴収することで、施設の意義や必要性の真価が問われることになる。 ・図書館や新しい村、進修館、無印良品等と連携したアウトリーチ（出前講座）など外部に出ていく工夫も必要ではないか。 ・周辺の地域資源（旧加藤家・斎藤家住宅、旧進修館、縄文住居など）と合わせて魅力アップの余地あり
28	新しい村	・宮代町の象徴的な施設やエリア、活動である。立地や風景を含め、宮代らしさの核心ともいえる。ただ、指定管理者が努力していることが見て取れるものの、投資に見合う成果が十分あげられているのか、市民を交えた検証作業が必要であると考える。指定管理者が第三セクターであることがいいのかも疑問である。**複合している機能を分割した上で、実績があったり意欲の高い民間企業に、運営者として活躍してもらう**方向を検討すべき時期に来ているのではないか。 ・宮代の中で人を呼べる中心的なコンテンツではある。ただ、徒歩だと見えづらさ、アクセスのしづらさがある。東武動物公園駅～進修館・役場～東武動物公園～新しい村～図書館などのサイン計画などを統一するなどして歩きやすさ、アクセスしやすさを向上させる必要があると思う。指定管理料もそこそこ高いので、ふるさと納税

現地視察レポート

	の増強(2019 年度決算で寄付金は 6585 万円。2017 年度から比較すると約2/3)等なんらかの手法を考えたい。シェアオフィスとしての利用も面白そうだし、宿泊(イメージは鶴岡のスイデンテラス)することができれば、楽しいと思う。町内の飲食事業者と協力して、宿泊者による貸農園での収穫体験、その場で飲食事業者に調理してもらい、そのまま泊まるといった活用ができたら面白い。 ・直売所、貸し施設、交流体験、農業支援、施設古い印象はないが更新時期はあと2 年 ・平日も町民の憩いの場となっている様子 →印象として運用・管理が固定化されている印象もあり、より収益化するために、指定管理先の変更や新しい人の投入できないか要検討 ・何といっても場所がわかりにくい。アクセス路も一見さんには難しい。誘導看板はオシャレだが分かりにくい。 ・公園として雰囲気はとてもよいが、今風のデイキャンプやグランピングなど新たな運営の工夫も大切ではないか。現在、コンサルが入って魅力アップを検討中。 ・直売所の規模が中途半端。結局、カスミストアとかに行った方が便利。 ・でも、宮代の顔として重要で、動物公園や無印良品など連携できないか。 ・借地分も多いが、動物公園と契約している新しい村の池の活用、新しい村出口の新設など。 ・東武動物公園駅西口エリアや農のみちといった地域資源を活かした面的な魅力アップによる価値向上の余地あり
その他(庁舎等)	**コメント**
29　役場庁舎	・時代を予見した木造建築として、存在感、立地、維持管理とも良好だと感じる。 ・空間が大きく、立地がよいことを生かし、**閉庁時間に他用途への貸出し**をすることができる。有効利用により、市民サービスへの向上につなげられる。一方、庁舎機能に関連したセキュリティの問題はある。それをできない言い訳にせず、前向きに実現の可能性を探っていただきたい。 ・ちゃんと手入れをしながら長期間使っていく施設だと思う。現在の状況を見ても、減価償却耐用年数を気にする必要はない。ただ、長期的に考えたときに大規模修繕の必要性や時期は明らかにする必要がある。 ・きれいで開放感あり →特に無駄と思われるスペース等なければ、現状維持でいいのでは ・執務室、会議室ともにそれほどスペースに余裕があるように感じない。 ・木造建築で、大切に長寿命化しながら使っていってほしい。 ・木造庁舎だが実質的な耐用年数は十分ある

現地視察レポート

30	宮代町保健センター	・どこにでもあるような一般的な公共施設の印象。つまり、あまり宮代らしい建物には見えない。改修工事が生じる際などに、費用をかけない範囲であってもイメージアップは可能なので、民間のアイデアを取り入れるなどの工夫をしていただければと考える。 ・地盤沈下などの課題が顕著。できれば、**六花や他の施設に統合**したい… ・地盤沈下、現在は検診、母子講習、健康介護課職員の執務室として利用 →**取り壊すべき施設、別施設へ移転**検討要 →六花や笠原小学校は空きスペースないとのことだが、町役場や百間中学校、少し遠いが前原中学校などは使えないか ・地盤沈下が激しく修繕が大変そう。現在の場所にある必要はない。 ・2階会議室は、保健事業等で使われているようだが、他の施設でも対応可能。 ・将来的には、**六花等に「保健センター」機能を移して連携**させた方がよいのでは？ ・地盤沈下が激しく、建替え困難なことから将来的には**どこかに集約・複合化**が選択肢
31	宮代町学校給食センター	・メニュー開発の努力を続け、外部の評価が高くすばらしい。世界の料理をメニューに取入れているのもユニークである。一方で、地元の食材を活用する取組みもされているだろうか。新しい村と連携するなどにより、より地域の経済に寄与し、愛着に結びつくことを期待したい。 ・一方で、将来的にもセンター式の給食でいいのだろうか。より家庭的な、個性的な、地元密着の給食を目指すとすれば、**自校式への転換**も視野に入れ、給食センターの**他用途への活用**（民間企業への貸出しや売却）を検討してもいいのでは。 ・道路環境は悪いが、それ以外の点で喫緊の課題はないと思う。全国的にみると**学校給食以外の調理（スーパーの惣菜調理）など有効活用**を図っている自治体も存在はする。近隣の老人ホームや高齢者の多い地域（団地）等への宅配などは考えられるかもしれないが、その場合調理器具等の傷みが通常よりも早くなる・輸送手段の多様化などが必要になりそう。 ・7 校の給食を集約、2 階から見学できる食育スペースなどあり →現状維持で OK では、活用されやすい形態になっていると評価できるのでは ・センター方式だが評判がよいし、施設も大丈夫そうなので当面はこのまま。 ・将来的には、**統合中学校建設に合わせて給食センターを併設**したほうが、防災上の炊き出しなど行う上で望ましい。配送コストも中学校分はなくなる。 ・町内 7 校分のセントラルキッチンとして機能 ・調理は民間委託している
自由記述		

現地視察レポート

・実際の公共施設を視察することにより、具体的なイメージをつかめました。新たなアイデアや展開を考えるきっかけができたと思います。従来型の公共施設マネジメントの枠を超えた発想により、ビジョンと具体策を描いていけそうな気がしてきました。

・一部のお金がかかっている施設がほかに比べて桁違いに費用が掛かっているため、負担感が大きい。
ぐるるのボイラー問題は喫緊の課題。費用面の負担をできるだけ抑えることができる仕組みの検討が必要。
ほとんどの公共施設（給食センター、はらっぱーく、前原中以外）が巡回バスルート上にあるので、意外と足の確保はしやすいと思う。ただ、バスの乗車率はあまり高くないということだったのと、町内の西側はカバーされていないので、日工大の学生用バス、デマンドタクシーなどと合わせて全体的な交通の確保の観点も必要そう。
すでに**無償貸与などの対応をとっている施設は、終い方**を考えておいたほうがよさそう？体育施設も個別に管理者（利用者）が異なるので、一気に省エネ化するなどの対応が難しそうだと感じた。
調整区域にある施設の利活用がどこまでできるのか、町としてどのようにしたいかも考える必要がありそう。
宮代には若くておもしろい飲食などの商業者がいるので、そういった人や似たようなことをしたい人が活動しながら公民館や集会所に自然に人が集まる場所を作れるような取り組みができたら面白いと思う。最新のコーホートを見ると、20 代前半の人が増えている（理由は不明。ただし 20 代後半になると同じくらいの数減ってしまう）ので、こういった層がそのまま定着し、コミュニティに入って活動ができる場所、公共サービスの一部を担えるようにするといった方向性を考えられないか。（地域の用務員さんのような？DX が進めば、集会所にタブレットなどを置いて使い方がわからない人を若者が支援するので住むような用事も多そう）。駅前の無印良品等によって人の流れもさらにできて、新しい人が宮代町に目を向けてくれるチャンスでもあると思う。
現状の公民館では、それぞれのサークル等がそれぞれ来て活動して帰るだけで、それ以上の交流が生まれるような場所ではないと思う。すでに集会所は地域移管、公民館は廃止が進んだ後なので、町として数を減らすことに目を向ける意味はないと思う。使い方の向上などを図っていくのがよい。

・用途の異なる施設への移転など（保健センターのサービス提供を小学校の空き教室で行う等）が法制度上、可能なのか、勉強不足でわからないため知りたい
・貸館機能のある施設については、町民が利用しやすい＆運営側の手間を省力化できる**一括予約管理システム等を導入**しても良いのでは。現状、高齢者のサークル活動や交流が主な用途になっているようだが、**土日利用やカード決済、無人入室可能にするなど、若い人にも利用しやすい仕組みを導入することで、稼働率を上げ収益化に繋げられないか。→今後小学校の空き教室活用などにも活かせるのでは**

・基本的に、まちのグランドデザインが無いというか共有されないまま、ご都合主義で新たな施設整備や複合化した機能を持つ施設整備が進められてきたように感じる。そして、借地や施設管理に問題が発生してから

現地視察レポート

急きょ個別的に対応する。そのため、公共施設の長期的なグランドデザインの作成と共有、その実現に向け、各施設ごとの短期的な個別計画をリンクさせて作成する。
・学校教育施設は、公共施設マネジメントの柱として欠かせないものであり、小中学校適正配置審議会の答申を十分尊重し長期的には1中学校、3小学校の考え方を基本とする。しかし、短期的には難しいので当面必要となるステップや改修計画を考えていくべきと思う。
・3つの公民館は、すでに公民館である必要はないが、東武線3つの駅ごとの地域コミュニティ拠点として、機能や役割を充実させて、地域の課題解決に取り組める「地域運営組織」のような運営形体が理想的（国交省が進める小さな拠点づくり等）。例えば、「○○地区コミュニティセンター・公民館」といった名称で、町の課題となるコミュニティと防災拠点を第一に考えながら、進修館や地区の集会所との役割や機能をすり合わせする。
・郷土資料館（西原自然の森）は、「新しい村」と農の道で緩やかにつながっているので、郷土資料館周辺を「むかしの村」という概念で、自転車貸出などしながら、「観光資源」として相乗効果を上げていく。資料館の旧進修館を隠れ家カフェとして「新しい村」の商品を提供してもよいし、資料館が新しい村に出前しほっつけなど紹介してもよい。例えば、「新しい村」は今風なグランピング宿泊に対して、「むかしの村」は古民家宿泊、縄文体験ができるなど。
・郷土資料館の研究や保存は大切だが、今の状態では町民にほぼメリットがない。図書館施設の一部に郷土史料コーナーを併設する、郷土文化の講座を講義室で定期開催するなど連携できるのではないか。
・今も成人式等で連携しているが、「東武動物公園」と一緒に「新しい村」の活用を考える。例えば、出口専用（新しい村口）を「村の集会所」あたりに作ってもらって、新しい村を通って駅方面に帰宅できるルート開発や、動物公園半券をクーポン券にして新しい村で購入できるなど。まずは知ってもらうことが大切。可能であれば、日工大に小規模無人バスを開発してもらって、新しい村口から、動物公園東口バス乗り場まで見世物的に無人バスを運行する。
・学校プールは、使用日数が少なく施設管理や清掃も大変。**「ぐるるの温水プール」を貸切って、学校や学年ごとまとめて集中授業を行った**方が効率的で、季節や気象にも左右されない。しかし、中学校には部活動等の面からも屋外プールが必要と思う。給食センターは、いずれ、防災面からも新設中学校と併設が望ましい。
・「保健センター」は、六花と一体化して、保健医療を連携させたほうがよい。また、六花診療所は必要としても老健施設は町管理の必要性は少なく、民間へ譲渡するなどして手放してもよいと思う。
・今後、教育支援センター（適応指導）といった教育や障害者の地域生活支援拠点等といった福祉機能の要請は、必ず増えてくる。その場合、旧社協建物など、ある程度遊休資源に余裕を持たせて確保しておく必要がある。
・総合計画実行計画に位置づく各事業の考え方は、公共施設マネジメント計画 2.0 が踏まえるべき基本事項となる。

①「地域資源活用による賑わい創出」、②「公民館の見直し」、③「埼玉りそな銀行による公民連携支援」について、別紙にて簡易提案書を提出致します。

現地視察レポート